

太陽誘電株式会社
2026年3月期第2四半期決算説明会 質疑応答要旨
(2025年11月6日開催)

Q1. 第3四半期、第4四半期の積層セラミックコンデンサ(MLCC)の稼働率は。第2四半期は90%の計画だったと思うが、85~90%に下がった背景は。また、2025年5月時点の想定と比較して用途分野別の動向は。値下がり率が想定より緩やかになっている理由は。

A1. 第3四半期の稼働率は、第2四半期と同じく85~90%を見込む。第2四半期に増やしきれなかった在庫(注1)を、第3四半期に後ろ倒しして積み上げる。第4四半期は80~85%の前提だが、来期の需要を見て動かしていく。第2四半期は計画を若干下回ったが、大きな差ではない。

用途分野別の動向はほぼ想定通りで、特にAIサーバーを含む情報インフラ・産業機器や自動車向けが伸びる見込み。

値下がり率は、顧客ミックスの影響で第1四半期より第2四半期の方が大きくなると見ていたが、AIサーバーを中心とした情報インフラ・産業機器や自動車向けが順調に伸びている影響で、実際は第1四半期より小さくなっている。第3四半期は、第2四半期に比べて値下がりが大きくなる想定しているが、通期では前期に比べて値下がりが緩やかになる見込み。

Q2. 営業利益予想増減要因の操業度効果を前回予想から79億円減額した理由は。

A2. 複合デバイスの売上予想を下方修正したことと、情報機器向けを中心としたインダクタの一時的な需要の弱さによる。コンデンサは売上予想を上方修正したが、為替変動による增收効果を除いても期初予想通りであり、操業度効果の押し下げ要因ではない。

Q3. 競合企業の決算発表を見て、太陽誘電のMLCCの売上も期初予想に対してもっと上振れるのではないかと思っていたが、シェア変動などがあったのか。それとも、期初予想の作り方の違いによるものか。

A3. 第2四半期のMLCCの売上伸率は、競合企業と比較して遜色はなかったと認識している。期初予想からの変化については、各社の予想の立て方の違いによるものだと捉えている。

Q4. 修正後の営業利益予想は為替影響を除くと期初予想に対して減益になるが、その理由は。

A4. 複合デバイスの赤字拡大と、これまで順調に伸びてきたメモリモジュールDDR5向けの需要拡大の一服感により、インダクタの利益が想定を下回ることによる。

Q5. 来期に向けたMLCCの需要動向や能力増強の考え方。

A5. 今期の能力増強は前期比+5%に抑制しているが、需要が強いAIサーバーを含む情報インフラ・産業機器や自動車向けの能力増強は継続している。来期の能力増強計画は未定だが、引き続き需要の伸びが見込める情報インフラ・産業機器、自動車向けを中心に能力増強を進める。

Q6. 米国関税による前倒し需要の影響で第3四半期は売上が減少すると予想しているが、影響額や用途分野の観点から説明してほしい。

A6. 前倒し需要の影響を正確に把握することは難しいが、主に情報機器や通信機器向けで前倒しがあったと認識しており、その反動で第3四半期は売上が減少する見込み。MLCCの月次受注は前月比で7月増加、8月減少、9月増加。10月も増加しており、10月のBBレシオは1を超える水準。

- Q7. DDR5向けの需要に一服感があるという話があったが、その背景は。メモリの需要動向は。
- A7. リプレース用の DDR4の需要が一時的に強くなつており、DDR5向けの当社のインダクタの売上拡大が想定を下回つていると認識している。メモリの需要自体は伸びている。
- Q8. 第3四半期の MLCC の用途分野別売上の見通しは。
- A8. 全用途分野で減少する見込み。特に民生機器、情報機器、通信機器の減少が大きく、自動車や情報インフラ・産業機器の減少率は相対的に低い。
- Q9. 第2四半期で在庫を 25 億円積み増す計画だったが、5億円にとどまった背景は。
- A9. 計画通り在庫を積み増すように進めていたが、第2四半期末に国慶節前の取り込みがあり、コンデンサ、インダクタともに計画通り在庫を増やせなかつた。
- Q10. 代理店販売の活発化によって9月以降の需要を予測しにくかつたという背景はあつたか。
- A10. 当社の代理店販売の比率は高くなつたため、当社の需要予測に影響はない。
- Q11. 通信用デバイスの売上減少に対して現在の構造改革では不十分だと感じるが、今後この事業をどのようにしていくか。
- A11. 今期、人員削減などによる構造改革で固定費削減を進めているが、製品ミックスの悪化や売上減少により厳しい状況。この現状を踏まえ、今後どうしていくべきかについて検討している。
- Q12. 第3四半期と第4四半期の営業利益増減要因を教えてほしい。
- A12. 第3四半期は前四半期比で売上が減少するが、ミックス改善と 50 億円の在庫積み増しによって営業度効果のマイナスを一部カバーできる。5億円の固定費減少、3億円の為替影響による営業利益の押し上げ効果もあり、前四半期比やや増益を見込む。第4四半期は 10 億円の固定費減少が増益要因となるが、売上減少や在庫の積み増しが 10 億円にとどまることによる営業度効果の減少が減益要因となり、前四半期比減益見込み。
- Q13. 通期の固定費が前期比で 25 億円増加する計画だが、上期の段階で既に前年同期比で 23 億円増加している。下期は固定費をどのように削減していくのか。
- A13. 通信用デバイスの構造改革による固定費削減効果が、上期よりも下期で大きく出る予定である。

注1：在庫増減額は、為替や利益に影響がない部分を除いた実態ベース

※当資料に記載されている、当社(太陽誘電株式会社、および当社グループ)に関する計画、業績見通し、戦略、確信等のうち、将来の記述をはじめとする歴史的事実ではないものは、すべて現在、当社が入手している情報に基づいて行った予測、想定、認識等を基礎として記載しているものであり、その性質上、客観的に正確であるという保証、ならびに将来その通りに実現するという保証はありません。実際の業績は、数々の要素により、現状の見通し等とは大きく異なる結果となりえ、かつ、当社が事業活動の中心とするエレクトロニクス市場は変動性が激しいことからも、当資料に全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。